

グローバル・スタディーズ研究センター 2018年度プロジェクト

2018-1

2018年10月～2019年2月開催

連続公開シンポジウム「逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権 世界各地で他者が排斥される時代の市民権とはなにか」

本センターは、センター設立10周年記念企画として、＜グローバリゼーションの反動による他者排斥型ナショナリズムの研究＞連続公開シンポジウム「逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権 世界各地で他者が排斥される時代の市民権とはなにか」を開催いたします。

開催概要

＜グローバリゼーションの反動による他者排斥型ナショナリズムの研究＞連続公開シンポジウム 「逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権 世界各地で他者が排斥される時代の市民権とはなにか」

静岡県立大学大学院国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター10周年記念企画

移民政策学会共催（第3回）

静岡新聞社・静岡放送後援

会場: 静岡県立大学

入場: 無料

事前予約: 不要

お問い合わせ先: 〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学国際関係学研究科附属
グローバル・スタディーズ研究センター 湖中真哉

電子メール: maaculture [at] gmail.com

開催趣旨

国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター 湖中 真哉

近年、英国のEU離脱、米国のトランプ大統領の台頭にみられるように、世界各地で移民・難民排斥や、外国人嫌悪等の他者排斥型ナショナリズムが勃興しています。こうした動向は、多文化共生、国際協調、人権の擁護、異文化との共存等のこれまで人文・社会学者が追求してきた方向にとっては大きな逆境と言わざるを得ません。しかし、これまでこうし

た問題は、メディアではおもに「ポピュリズム（大衆迎合）」の問題として論じられてきました。

こうした問題に対して、わたしたちは、他者排斥型ナショナリズムを理解するためには、冷戦体制崩壊後、顕著になったグローバリゼーションと、それが引き起こした様々な負の影響にも目を向ける必要があると考えました。グローバリゼーションが文字通り世界規模の一体化現象であるとしたら、今まさに、世界中で同時多発的に起こりつつあるのは、グローバリゼーションへの反動であると考えられます。いわば、世界各地を外に開く波であったグローバリゼーションが、今度は、各国の内側に向かって逆流を始めたのです。

このような考えにたち、わたしたちは、昨年度に 9 回の連続公開セミナーを実施しました。そこで明らかになったのは、世界各地の国家は、ブレクジット・トランプ期より以前から、それぞれの国家の国益との関係のなかで、移民や難民を受け容れたり、制限したりする試行錯誤を繰り返してきたことでした。わが国においても、人口減少社会の到来とともに深刻な労働力不足が既に全国各地で起こっています。そして、不足する労働力を補うために、外国人労働者を積極的に受け容れるべきだとする意見と、それには慎重になるべきだという意見が対立しています。そしてそれは、人口減少の深刻な影響が懸念されているわたしたち静岡県民にとっても重要な課題と言わねばなりません。

昨年度の連続公開セミナーからわたしたちが学んだ重要な成果のひとつは、外国人労働者は決してたんなる労働力ではなく、市民権をもった生身の人間として扱われなければならないということでした。世界各地で発生している移民や難民の受け容れに関する衝突の多くは、この市民権を十分に考えてこなかったことに起因すると考えられます。移民や難民の受け容れに対して積極的であるべきだと考えるにせよ、慎重であるべきだと考えるにせよ、移民や難民をたんなる労働力としてみる立場を越えて、ブレクジット・トランプ期以降の移民や難民の市民権の在り方を改めて考え直してみる必要があるとわたしたちは考えました。

今年度の連続公開シンポジウムでは、4つのミニ・シンポジウム形式の報告と討論を通じて、グローバルな地球規模の比較考察とローカルな静岡県の地域社会研究の両面から、ブレクジット・トランプ期以降の外国人市民権の在り方を考えます。外に向かう波であったグローバリゼーションが内に向かい始めた時、世界各地では移民や難民の市民権をどのように考えてきたのでしょうか。また、外から内に逆流するグローバリゼーションの波に翻弄されながら、移民や難民はいかにして市民権を確保してきたのでしょうか。本年度の連続公開セミナーでは、静岡県焼津市で水産加工業に従事する外国人労働者の問題も扱われます。幅広い地球規模の視野に立つ一方で、わたしたちにとって身近な地域の問題を考えてみたいと

思います。

プログラム（会場は全て静岡県立大学）

第1回 ミニシンポジウム 1: 逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権

開催日: 10月15日(月) [10月1日開催予定を台風24号による影響のため延期]

パネリスト報告: 13:00-14:30 一般教育棟 2103 教室

討論: 14:45-16:00 国際関係学部棟 3108 教室

コーディネイター: 湖中真哉・石井由香(静岡県立大学・グローバル・スタディーズ研究センター)

パネリスト: 南川文里(立命館大学・国際関係学部)、佐藤成基(法政大学・社会学部)、柄谷利恵子(関西大学・政策創造学部 [資料代読による参加])

第2回 ミニシンポジウム 2: ブレクジット・トランプ的世界の中での市民権を考える

開催日: 10月22日(月)

パネリスト報告: 13:00-14:30 一般教育棟 2103 教室

討論: 14:45-16:00 国際関係学部棟 3108 教室

コーディネイター: 湖中真哉・奈倉京子(静岡県立大学・グローバル・スタディーズ研究センター)

パネリスト: 山本須美子(東洋大学・社会学部)、陳天璽(早稲田大学・国際教養学部)、松田ヒロ子(神戸学院大学・現代社会学部)

第3回 ミニシンポジウム 3: さかなと外国人～和食を支える日系人・技能実習生・留学生(移民政策学会共催)

開催日: 12月15日(土)

時間: 15:30~18:00

場所: 国際関係学部棟 1階 3108 教室

コーディネイター: 高畑幸(静岡県立大学・グローバル・スタディーズ研究センター)

パネリスト: 佐々木貴文(鹿児島大学・水産学部)、金延景(筑波大学大学院・博士後期課程)、高畑幸(静岡県立大学・グローバル・スタディーズ研究センター)、豊島エリザ(焼津フィリピンコミュニティ)

第4回 ミニシンポジウム 4: ローカル・シティズンシップを考える (Congress of IR)

開催日: 2019年2月15日(金)

場所: 経営情報学部棟 4111 教室

時間: 13:30~14:30 (開場 13:00)

コーディネイター: 澤田敬人(静岡県立大学・グローバル・スタディーズ研究センター)

パネリスト: 山中啓子(カリフォルニア大学・バークレー校/静岡県立大学・国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター)、高畑幸(静岡県立大学・グローバル・スタディーズ研究センター)

*第4回は全て英語による報告です。

* 14:40 から県立大学学生による報告を予定しています。

2018-2

2018年12月15日（土）開催

移民政策学会冬季大会

12月15日（土）に、移民政策学会冬季大会を静岡県立大学で開催します。グローバル・スタディーズ研究センターはこの大会を共催しています。シンポジウム企画は、本センターの連続公開シンポジウム第3回と共通です。参加費無料です。

詳細はポスターを御参照ください。

2018-3

2019年1月23日(水)開催

講演会「日本の伝統武術のグローバル化 ―和道流空手道の国際的普及への道―」

本センターが共催する講演会「日本の伝統武術のグローバル化 ―和道流空手道の国際的普及への道―」が開催されます。

和道流空手道三代宗家・最高師範の大塚博紀氏が来校します。空手は2020年東京オリンピックで正式種目となることで、最近注目を集めています。本講演会では日本文化論の視座から興味深いお話しをしていただきます。

日時：平成31年1月23日(水) 午後4時20分から5時50分まで

会場：静岡県立大学一般教育棟1階 2106室

参加申込：不要

担当：静岡県立大学国際関係学部 奈倉京子・坂巻静香

講演概要

空手道は、2020年東京オリンピックの正式種目となり、最近メディアでも取り上げられるようになりました。空手道には4つの流派がありますが、そのなかでも和道流は、国際的な普及活動に力を入れています。三代目宗家は、2005年より10年間、フランス・モンペリエに居住し、欧州での空手道事情を視察しながら、世界各地で和道流空手道の普及活動を行ってきました。こうしたご自身の海外経験にもとづき、本講演会の第一部では、外国人に身体技法を伝える方法、外国人にとっての空手道の魅力、武道とスポーツの違い、日本の伝統芸能との共通点などについてお話しいただき、日本文化の伝播と継承について考えます。本講演会の第二部では、和道流空手道連盟理事長の坂巻明氏とともに、演武と解説をご披露いただきます。

2018-4

2019年2月15日(金)開催

Congress of IR 2018-2019「ローカル・シティズンシップを考える」

市民権についての問題を2部構成で迫る CONGRESS OF IR 2018-2019「ローカル・シティズンシップを考える」を開催いたします。

世界各地で発生している移民や難民の受け容れをめぐる生じる衝突の多くは、労働力の必要に応じ調節されるだけの存在として、生身の人間であるはずの彼らの市民権を十分に考えていないことに起因します。移民や難民をたんなる労働力としてみる立場を越えて、ブレクジットおよびトランプ期以降の移民や難民の市民権を改めて考える必要があります。地球規模の視野に立ちつつも、私たちの身近な地域の問題でもあります。

今回で3回目となる Congress of IR では、テーマ「ローカル・シティズンシップを考える」のもと、第1部と第2部の2部構成で、グローバル化と係るローカルな文脈での市民権の問題を追究いたします。使用言語は多言語ポリシーに基づき、英語・中国語・日本語となっています。

第1部では、「逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権」の第4回ミニシンポジウムの形式で、カリフォルニア大学バークレー校の Dr. Keiko Yamanaka とグローバル・スタディーズ研究センターの高畑幸先生から、ローカル・シティズンシップとはどのようなものなのかを講演の形でお示しいただきます。第2部の「ローカル・シティズンシップを考える」では、学生のプレゼンテーションを行います。発表者のプレゼンテーションは、中国語による発表については奈倉京子先生、英語による発表については Dr. Yamanaka からコメントをいただきます。

日時 2019年2月15日(金)

13:00 開場

13:30-14:30 ミニシンポジウム(「逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権」第4回、静岡新聞社・静岡放送後援連続公開シンポジウム)

14:40-16:10 学生によるプレゼンテーション

会場 経営情報学部棟 4111 ※駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用ください
対象 学生・教職員・一般(どなたも入場無料です)

内容

13:30-14:30 Mini Symposium - Local Citizenship Revisited

"Gendered Migration of Filipinos to Japan and its Consequences: Focus on the Marriage Migrants as Care Workers"

Prof. Sachi Takahata, University of Shizuoka (in English)

"Nepalese Labor Migration to East Asia: Local Citizenship and Global Household Strategy"

Dr. Keiko Yamanaka, University of California, Berkeley (in English)

14:30-14:40 休憩

14:40-16:10 Students Presentations on Local Citizenship

「中国西北地域の汉族与少数民族の共生」(中国西北地域における漢族と少数民族の共生／
"Coexistence of the Hun and Ethnic Minorities in Northwest Region of China")

発表者：村松咲彩 (Saaya Muramatsu)・周一謙(Zhou Yiquan)・田中香花(Kyouka Tanaka)・
賈莉佳(Rika Cha) (中国語によるプレゼンテーション) (日本語補助あり)

"Human Rights of Refugees in Japan: A Study of the Kurdish Community (Warabistan) in
Warabi and Kawaguchi Cities in Saitama Prefecture, Japan"

Presenter: Toshiya Ban (in English)

Commentator: Dr. Keiko Yamanaka, University of California, Berkeley (in English)

"Outcomes of Our Learning in the Class"

Presenters: Students of the "Current Topics Class" (in English)

お問い合わせ先

グローバル・スタディーズ研究センター 澤田 sawada[at]u-shizuoka-ken.ac.jp

2018-5

Congress of IR 2018-2019 「Local Citizenship Revisited」 レポート

2019年2月15日（金）に開催しました Congress of IR 2018-2019 "Local Citizenship Revisited"のレポートをPDFファイルで公開いたします。

前半は、グローバル・スタディーズ研究センターによる連続公開シンポジウム「逆流するグローバリゼーションにゆれる市民権」の最終回を兼ねました。センター研究員の高畑幸先生およびカリフォルニア大学バークレー校の山中啓子先生にご登壇いただき、ローカルシチズンシップに関する最近の論点をお示しいただきました。

後半は、国際関係学部・国際関係学研究科の学生が登壇し、テーマの"Local Citizenship Revisited"に基づきこれまでの学習成果、調査結果や政策提言を英語あるいは中国語で発表しました。学生のプレゼンテーションに対し、あらかじめ指定された先生がたからそれぞれコメントをいただきました。学生はコメントに応答し、自分たちの考えを深めました。